

2010年1月12日

NHK交響楽団

**NHK交響楽団 名誉指揮者
オットマール・スイトナーの逝去について**

NHK交響楽団名誉指揮者のオットマール・スイトナーは、去る1月8日（金・現地時間）に、ベルリンで亡くなりました。87歳でした。

生前の当団へのご指導と貢献、その功績に感謝し、ご冥福をお祈りするとともに、ここにご報告いたします。

スイトナーは1971年にN響定期公演に初出演、そして1973年に名誉指揮者に就任いたしました。以来これまでに計14回出演し、ドイツ音楽を中心に、名演を繰り広げてきました。最後の招聘は1989年11月、ハイドンのオラトリオ《天地創造》の演奏でした。

1980年代末頃からは体調を崩し、指揮活動から遠ざかっていました。

なお、葬儀等の詳細については、未定です。

オットマール・スイトナー
Otmar Suitner
(1922～2010)



1922年5月16日、オーストリア・インスブルック生まれ。ザルツブルクのモーツァルテウム音楽院で、指揮をクレメンス・クラウス、ピアノをフランツ・レトヴィンカに師事。第2次世界大戦後、ピアニストとして輝かしい成功を収め、ヨーロッパ楽壇にデビューしましたが、クラウスの強い勧めもあり、インスブルックおよびレックリングハウゼンにおける教会の合唱指揮者となりました。その一年後には、西ドイツ各地のオーケストラから指揮者として迎えられ、優れた才能によってヨーロッパ楽壇における指揮者としての地位を確立しました。

1960～64年ドレスデン国立歌劇場音楽監督、1964～91年ベルリン国立歌劇場音楽総監督を歴任し、ヨーロッパ一流歌劇場を率いる指揮者として活躍する一方、広いレパートリーを携えて、各国のオーケストラへの客演を活発に行いました。

初来日は1971年12月、NHK交響楽団の招聘により、12月定期公演、ベートーヴェン《第9》を指揮、大成功を収めました。当団では、1973年に再招聘の際に、名誉指揮者の称号を授与しています。N響での最後の出演は1989年11月で、ハイドンのオラトリオ《天地創造》の演奏でした。1980年代末頃からは体調を崩し、指揮活動から遠ざかっていました。

2010年1月8日、ベルリンで逝去されました。